

地域をかえるチカラ。

令和2年度 岩国市生活支援体制整備事業 ～地域が元気になるための活動報告～

「支え合い」って
大切なことだとは思うけど、
一人では動く勇氣も出ないし、
余裕もない。
でも、ご近所のみんなと一緒になら...？
そう思う人々が結集したとき、
なんだか出来そうな気がしてきて
ほんの少し、地域の温度もあがった。
それはやがて大きなチカラとなって
地域の未来を変えていく。
皆さんは、自分の住む町を
どんな地域にしたいですか？

目 次

1. 生活支援体制整備事業とは	1
2. 生活支援体制整備事業の内容	
(1) 協議体の設置	2
(2) 生活支援コーディネーターの設置	2
(3) 実施地区	3
(4) 実施内容	3
3. 令和2年度の実施状況	
東地区	4
愛宕地区	5
師木野地区	7
北河内地区	7
灘地区	8
通津地区	9
神東地区	10
由西地区	11
由東地区	13
玖珂地区	14
周東地区	16
美川地区	18
本郷地区	19
美和地区	20
錦地区	21
4. 今後に向けて	22

1. 生活支援体制整備事業とは

岩国市では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、自助・互助の推進を目的に、住民の皆さんが主体となって「生活支援」を重視しながら、ささえ合い活動ができる地域づくりに取り組んでいます。

地域包括ケアとは、医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り、住み慣れた地域で自立して暮らし続けていくことができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるという考え方です。

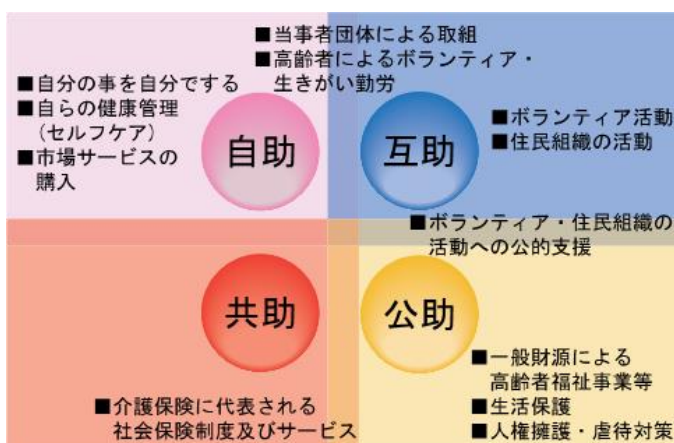
これを実現するためには、「自助・互助・公助・共助」が連携して機能するように、地域包括ケア体制を深化・推進させることが重要となります。

そこで、岩国市では高齢者の生活支援体制の充実、強化を図るとともに、高齢者の社会参加を促進し、高齢者が共にささえ合い介護予防に向けた地域づくりを推進することを目的として、平成30年度から社会福祉法人岩国市社会福祉協議会に生活支援体制整備事業を委託し、生活支援体制の整備に取り組み始めました。

介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、住民の皆さんを主体とした地域におけるささえ合い、つまり「互助」が必要になってきます。生活支援体制整備事業は、岩国市における地域包括ケアシステムの自助・互助の取り組みを進めていくものですが、同時に地域のささえ合いやつながりをつくる「地域づくり」にもつながっています。



地域包括ケアシステムのイメージ図



自助・互助・共助・公助からみた地域包括ケアシステム

2. 生活支援体制整備事業の内容

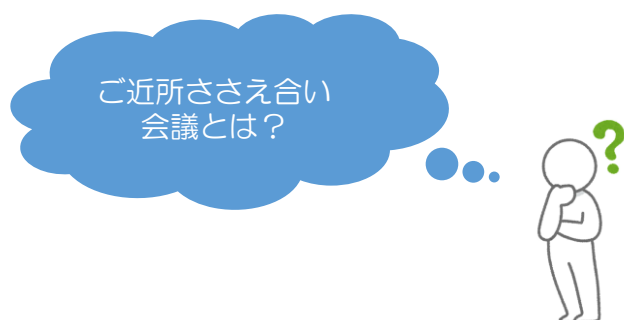
(1) 協議体の設置

岩国市では、第1層と第2層の二つの協議体を設置して生活支援体制整備事業を行っています。

第1層協議体では、地域包括ケアの推進をするため、地域での生活支援について関係団体や市の関係課で意見交換を行っています。

第2層協議体では、地区社協または自治会連合会単位で協議体を設置し、生活支援に関する話し合いを行っています。

この協議体が、地域の皆さんの身近な話し合いの場となるよう、「ご近所ささえ合い会議」と名づけて、課題解決に向けた事業を進めています。



地域住民がメンバーとなり、今やっていることやできることなどをみんなで話し合う場です。

地域の情報を共有し、将来に向けて「自分たちのまちをどのような地域にしたいか」などを話し合い、その地域ならではのささえ合いを考えます。

引用：岩国市社会福祉協議会ホームページ
<http://iwasha.jp/pdf/seikatushien.pdf>

(2) 生活支援コーディネーターの設置

生活支援コーディネーターとは、地域の皆さんが主体となって行う助け合いの仕組みづくりをコーディネートし、生活支援サービスの把握や、地域資源の整理・開発を行う推進役です。

現在、岩国市では生活支援コーディネーターを5つの圏域に1人ずつ配置し、高齢者が住み慣れた地域で生きがいと希望を持ちながら暮らし続けていくためのささえ合いの仕組みづくりを、地域の皆さんと一緒にしています。

(3) 実施地区

令和2年度は、新たに1地区が協議体を設置し、現在は市内27地区において展開されています。

圏域	地区	協議体設置年度	圏域	地区	協議体設置年度
岩国1	今津山手		岩国4	玖珂	平成30年度
	山手			中央	平成30年度
	室の木			南	平成30年度
	麻里布			中田	平成30年度
	東	平成30年度		祖生	平成30年度
	装港			米川	平成30年度
	小瀬			川越	平成30年度
	柱島		岩国5	美川	平成30年度
	川下			本郷	平成30年度
	愛宕	令和2年度		美和	平成30年度
岩国2	岩国			錦	平成30年度
	錦見	平成31年度			
	横山	平成30年度			
	川西	平成30年度			
	平田	平成30年度			
	藤河	平成30年度			
	御庄	平成30年度			
	師木野	平成30年度			
	南河内	平成30年度			
	北河内	平成30年度			
岩国3	灘	平成30年度			
	通津	平成30年度			
	神東	平成30年度			
	由西	平成30年度			
	由東	平成31年度			



(4) 実施内容

協議体では、地域での困りごとなどについて話し合いをしています。

自分たちの地区にはどんな資源があるか、見守りが必要な人が近所にいるがどうしたらいいか、買い物やごみ出しに苦労している人の手助けができないかなど、まずは定期的な地域情報の共有を行うため、地域の皆さんで話し合いを行います。

その後、地域資源の整理を行い、まとめた情報をうまく活用して課題解決に向けた助け合いの仕組みを作っていきます。

3. 令和2年度の取組状況

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々なイベントや活動が中止されました。

ご近所ささえ合い会議についても、従来と同じように行うことが難しく、開催を見送る地区もありましたが、感染対策に留意しながら自分たちでできることを考え実践した地域の取り組みについて紹介します。

東地区

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
東地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、商工会、岩国市社会福祉協議会岩国支部、高齢者生きがいボランティアグループ、ボランティア団体	2回	13人

東地区では、頼みやすい関係づくりを築き、困った時に「助けて」と言える地域をつくるための活動をしています。

◇高齢者生きがいボランティアグループを設置

高齢者の在宅生活を支える仕組みを創出するため、地域全体を4つのグループに分け、高齢者生きがいボランティアグループを設置。活動に向けて、人材募集・ルール化・ニーズ把握などを協議しました。

◇資源マップの発行に向けて

生活支援から災害、相談の場面まで困った時に役立つ情報誌「資源マップ」の発行に向けて協議をしました。



◇地域の皆さんに活動内容を周知

東地区社協だよりに「ご近所ささえ合い会議」の進捗状況を掲載し、地域全体に発信しました。



協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
愛宕地区社会福祉協議会、自治会、福祉員、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会岩国支部、地域包括支援センター、企業、ふれあい・いきいきサロン、通いの場	1回	9人

愛宕地区では、「あなたの困りごとについてのアンケート」を行い、調査結果から見えてきた「買い物弱者」という課題解決に向けて、移動販売車の誘致を行いました。

◇まずは地域の困りごとを知る

地域住民が抱えている困りごとが何か、まずは課題を“見える化”することから始めました。アンケート調査を実施した結果、近くにスーパー等がなく「買い物」に困っている人が多いことが分かりました。



◇移動販売車の誘致に向けて

そこで、移動販売車を誘致するため情報収集や見学を行い、販売拠点などの調整を進めました。移動販売の維持は住民の利用継続がポイントとなるため、知ってもらうことが重要となります。ふれあい・いきいきサロンや通いの場、老人クラブなどに協力をいただき、福祉員から情報を伝えてもらったり、自治会長協力のもとチラシを作成して回覧板などで周知を行いました。



準備会議を含めメンバーは複数回集まり、移動販売車を誘致する拠点、時間帯、周知方法など、何度も話し合いを重ねました。

◇移動販売がコミュニケーションの場に

愛宕地区社会福祉協議会や自治会長なども販売拠点に出向き、高齢者の様子や声を直接見聞きし、成果を実感しています。近所の高齢者を誘って一緒に買い物に来たりなど、移動販売が地域のコミュニケーションの場となっています。



歩いて買いに来てご近所さんとちょっと立ち話をする。移動販売がコロナ禍で孤立しがちだった高齢者の集いの場となり、一人暮らしの高齢者の見守り活動にもつながっています。

◇「愛宕地区社協NEWS」に情報掲載

移動販売車導入について、第424号「愛宕地区社協NEWS」に掲載し、令和3年3月19日に発行。地域全体に回覧や掲示を行い、愛宕地区社会福祉協議会ホームページにも掲載しました。

◇令和2年度に設置した移動販売の拠点

令和2年12月9日 錦南自治会

令和3年3月16日 門前道の上自治会、
牛野谷南第2自治会

令和3年3月19日 百合ヶ丘自治会

この他にも、拠点を増やしていきます。

発行日 2021.3.19
第424号 愛宕地区社協画像NEWS 発行元 広報部

件名 愛宕地区に移動販売車 導入 3月19日(金) 福祉対策部

これからますます超高齢化が進む中において、取り組むべき課題は多様化しています。高齢者の要望の上位に、『近くに買い物をするお店がないので不便』との要望がアンケート調査でわかりました。俗に言う『買い物難民』で、生きていく上でとても大切な問題です。

このテーマに対し、福祉対策部では岩国市社会福祉協議会と協働し、事業者さま(マルキュウいくまき)のご協力を得て移動販売車の導入にこぎつけることができました。

現在、牛野谷公会堂横、牛野谷2丁目鉄塔横、錦南自治会地区、門前道の上自治会地区、牛野谷南第2自治会地区、百合ヶ丘自治会地区の6か所で移動販売車が導入されています。

買い物をした方の中には、『品物を手にとって見て買う楽しさとともに、お互い顔を合わせられることがうれしい!』とのこと。今後の進展が期待されます。

3/19 (金) 2021年3月19日 百合ヶ丘自治会より

以前からお願いしていた移動販売車がようやく百合ヶ丘集会所に来てくれました。(スーパー丸久の品です。)

毎週金曜日午後 4:10 が音楽なりまーす!

みんな、集まって下さいね!

↑ 百合ヶ丘自治会での周知案内のチラシ

門前道上自治会での様子

牛野谷南第2自治会での様子

百合ヶ丘集会所での様子



メモ 66

インフォーマル資源の活用

困りごとを解決するときには有効活用できるのが、公的なサービス以外の「インフォーマル資源」とよばれるサービスです。高齢者の皆さんが住み慣れた地域で暮らし続けていくために、地域でのささえ合い活動をはじめ、民間企業、NPO法人、ボランティア団体などのサービスもうまく活用できるよう、各地域の協議体においてはインフォーマル資源の情報をまとめた「資源マップ」の作成を進めています。

師木野地区

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
師木野地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、岩国市社会福祉協議会岩国支部、高齢者生きがいボランティアグループ、地域包括支援センター	2回	19人

◇効果・検証

令和元年度に地域に配布した「生活便利帳」の効果について確認しました。

◇令和3年度に向けて「ご近所ささえ合い会議」の活動テーマを検討

ご近所ささえ合い会議の活動テーマを検討するため、他地区のご近所ささえ合い会議の活動状況の情報を共有しました。その結果、活動テーマとして「生活便利帳」の更新・配布や、高齢者活き行きサポート事業（タクシー料金助成事業）、高齢者割引等のお知らせをしっかりと行い、活用を促すことが候補として挙げられました。



◇地域で介護予防に取り組むために

フレイルや介護予防について、地域包括支援センターから説明をしてもらい、地域でどのように介護予防に取り組んでいくかを検討しました。

北河内地区

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
北河内地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、福祉員、岩国市社会福祉協議会岩国支部、高齢者生きがいボランティアグループ	1回	15人

◇令和3年度に向けて動き出します

令和3年度に向けてご近所ささえ合い会議の活動テーマを選定。「生活支援お助け手帳」（資源マップ）の更新及び配布を行うこととしました。併せて、令和3年度に向けてご近所ささえ合い会議の活動スケジュールも検討し、生活支援お助け手帳を8月の敬老会で配布できるよう計画を進めていくことにしました。



協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
灘地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、福祉員、 岩国市社会福祉協議会岩国支部、高齢者生きがいボ ランティアグループ、地域包括支援センター	7回	70人

灘地区社会福祉協議会のメンバーで「元気なま
ちだ生活便利帳」（資源マップ）を作成し、65歳
以上の一人暮らし世帯と、75歳以上の二人暮らし
世帯へ配布しました。



◇一つひとつ心を込めて

資源マップを届けたい地域の対象者は、地域のことをよく知っている民生委員と福祉員で抽出し、活用してもらえよう手渡しで配布を行いました。



印刷ページは延べ19,200ページ。みんなで一つずつ手作業で作成した資源マップは、それを必要とする方のもとへ繋がっていきます。

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
通津地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、福祉員、NPO法人、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会岩国支部、地域包括支援センター	5回	61人

“地域の声を聞き、ご近所ささえ合い会議で情報交換し、自分たちの活動の場で地域住民と共有する”。通津地区では、このサイクルを何度も繰り返しながら、高齢者がより暮らしやすい街になるようにと、話し合いが続いています。

◇「困りごとがない地域はない」

まずは自分たちの街のどこに、どんな困りごとがあるのか、地図上にマーキングして、困りごとの“見える化”を行いました。地域包括支援センターの職員やケアマネジャーなどから地域の困りごとを情報収集した結果、ごみ出しや移動に困っている人が多いことが分かりました。

◇高齢者生きがいボランティアグループの必要性

「ごみ出し支援」と「移動支援」については、地域みんなでささえ合う方法が必要であるため、高齢者生きがいボランティアグループの必要性について検討しました。実際に高齢者生きがいボランティアグループで活動している人からは、「困っている人に寄り添い、困りごとを聞き出すことが大事。でも、できることは奪わないことも大切。」という声がありました。



地域の声を聞き、ささえ合い会議で情報共有をしていくと、地域は違っても大まかな困りごとは大体同じであることが分かってきました。

メモ 66

高齢者生きがいボランティアグループとは？

ごみ出しや送迎といった高齢者の困りごとに対し、利用者の自立を助けることを目的として簡単な生活支援を行うボランティアグループのことです。おおむね60歳以上の方々に構成されています。

利用者の困りごとを解決することはもちろんですが、ボランティアとして参加することで、誰かの役に立つという生きがいにつながったりなど、ボランティアをする側の社会参加にもつながっています。

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
民生委員、福祉員、居宅介護支援事業所、岩国市社会福祉協議会由宇支部、高齢者生きがいボランティアグループ、地域包括支援センター	19回	189人

「“わが家で暮らす”を支えあえる神東（まち）に」。この言葉を地域ビジョンに、神東地域では一人ひとりがこのまちで暮らし続けていけるよう、地域で何がサポートできるかを話し合っています。



“わが家で暮らす”を支えあえる神東（まち）に

わが家って、どこだろう。
暮らしでいる家。それとも、生まれ育った故郷。
ある人は毎日を過ごすグループホームだと言い、
ある人は大好きな人がいる場所だと言う。
どこにいたって、その人がその人らしくいられる居場所。
それが、わが家なんだと思う。

暮らしって、なんだろう。
何気ない日常も忙しい毎日、うれしい日もかなしい日も。
全部ひっくるめた日々の生活。
暮らしって、一人ひとりを取り巻く生き方なんだと思う。

支えあえる神東（まち）に。
一人ひとりが想うわが家での暮らしを支えあえる地域。
わたしたちは、そんな神東（まち）で暮らし続けたい。

神東地域ご近所ささえ合い実行委員会

◇一人ひとりの想いを知り、受け止める

地域がサポートできることを個別にプランニングするため、民生委員、福祉員、ボランティアが3チームに分かれて対象者のお宅を個別訪問し、現在の生活実態や困りごと、これからどう暮らしていきたいかを聞き取りしました。



同じ地域に住む住民同士、おしゃべりをするような和やかな雰囲気の中で訪問調査が行われました。

◇防災は平時のささえ合いから

いざという時のために、平常時のささえ合いを防災活動につなげることで見据えています。個別訪問調査では、対象者と一緒に「災害避難カード」を作成し、災害が起こる前に誰が声かけをするのか、いま住んでいる場所にはどんな災害が起こる可能性があるのかなども話し合っています。

◇見えてきた課題はそのままにしない

支援が必要な人には、高齢者生きがいボランティアグループや関係機関につなぎ、いくつかの困りごとを解決に導きました。この個別訪問調査で困りごとを把握したことをきっかけに、新たに高齢者生きがいボランティアグループが立ち上がったところもあります。



1年をかけて「準備→調査→計画→支援→評価」というフローを進めてきた神東地域では、今後もこの一連の動きを繰り返しながら、“支えあえる神東（まち）”になるよう地域づくりを進めていきます。

由西地区

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
民生委員、福祉員、高齢者関連施設、岩国市社会福祉協議会由宇支部、高齢者生きがいボランティアグループ、自主防災組織、ボランティア団体、企業、地域コミュニティ組織	9回	82人

由西地区では、地域住民が“いま”何に困っているのか、そして“これから”どんなことなら協力できるかなど、一人ひとりの想いを知ることから始めようと、由西地区の高校生以上全住民を対象に、「由西地区全住民アンケート調査」を行いました。



◇アンケートの結果から見てきたものをカタチに

アンケートの調査結果をもとに、地域が求める困りごとの解決策になるよう、ボランティアから企業まで由西地区の情報を丸ごと詰め込んだ情報誌「生活おたすけ便利帳」を作成することになりました。



「分かりやすいように、お店の写真や由西地区にゆかりのある写真を掲載しよう」。話し合いの会議では様々なアイデアが飛び交いました。

◇便利帳の作成だけでは終わらない

自分でサービスを見つけたいときに、あるいは困った人にサービスを紹介したいときに。この便利帳を活用して地域全員でささえ合いができるよう、完成した便利帳は由西地区の全戸へ配布しました。

またアンケートの結果から、高齢者の日常生活支援の必要性が見えてきたことから、地域でささえ合いができる街になるよう、現在は高齢者生きがいボランティアグループを増やすための計画を行っています。



便利帳への掲載をきっかけに、新たに配達サービスを始めた事業者も生まれました。由西地区のチカラが集まった集大成です。

メモ 〇〇

地域の声をきく

地域でささえ合い活動を行う時に重要となるのが、どんな困りごとを抱えている人がいるのかを把握することです。各地域のささえ合い会議でも、アンケートなどを行って地域のニーズを調査し、メンバー全員でその情報を共有している様子がみられます。協議体のメンバーが同じ方向を向いて活動していくためにも、地域の声を聞き皆で共有することが大切です。

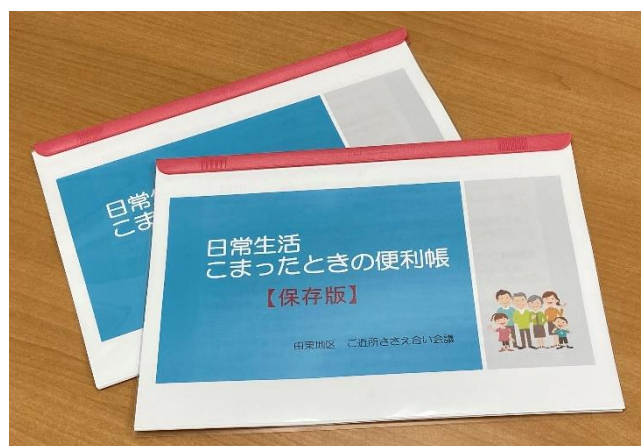
協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
自治会、民生委員、福祉員、高齢者関連施設、商工会、岩国市社会福祉協議会由宇支部、シルバー人材センター、高齢者生きがいボランティアグループ、自主防災組織、ボランティア団体、地域包括支援センター	11回	98人

配達ができるお店や往診してくれる病院、地域住民憩いの場のサロンや生活をサポートしてくれるボランティアグループなど、由東地区の日常生活の困りごとに役立つ情報誌「日常生活こまった時の便利帳」を作成しました。



◇配布方法の工夫と効果

完成した便利帳は、民生委員、福祉員協力のもと、由東地区在住の65歳以上の一人暮らし、75歳以上の夫婦二人暮らしの世帯に手渡しで配布しました。受け取った方からは、「こういうのが欲しかった。」「あの人にも渡したいからもう一冊!」という嬉しい声も。また民生委員からは、手渡しで配布したことが地域の皆さんとの関係構築のいいきっかけになった、という意見もありました。



情報が新しくなっても差し替え可能なファイリング形式にする工夫もしました。

◇次に向かう先は・・・

便利帳を配布し終えて、次に由東地区が向かった先は「認知症対策」。令和7年には65歳以上の5人に1人が認知症になるとも言われており、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、地域のささえ合いが必要です。認知症について地域でできることは何か、話し合いを続けています。



住み慣れた地域で認知症と共に生きるために、地域は何かできるだろうか。ご近所ささえ合い会議で話し合いを続けています。

玖珂地区

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
自治会、民生委員、福祉員、人材バンク登録者、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会玖珂支部、岩国市玖珂支所、ボランティア団体、婦人会、食生活改善推進協議会、更生保護女性会、地域包括支援センター	2回	29人

玖珂地区では、令和元年度に作成した資源マップ「くがまちお役立ちガイド」の内容を更新するため、ご近所ささえ合い会議のメンバーで資源マップ作成チームを作りました。

完成した資源マップは、民生委員や福祉員、岩国お助けネット人材バンク登録者、ふれあい・いきいきサロンの代表者など、高齢者の困りごとを聞く機会が多い方へ配布し、近所で困りごとのある高齢者の方へ情報提供をしていただくようにしました。

また、玖珂支所の福祉窓口や包括支援センターでも活用してもらうよう、配布をしました。



◇信頼できる情報は地域の人が一番よく知っている

「高齢者が住み慣れた自宅で暮らし続けるためには、どんな情報が必要だろう?」。ご近所ささえ合い会議のメンバーで話し合いを重ね、配食サービスや草刈りをしてくれる事業所、地域の交流の場など、困ったときに役立つ情報を集めた一冊を作成しました。「信頼できる情報が一番!」ということで、掲載する情報は、地域のことをよく知る地域住民から直接集めました。



◇高齢者のちょっとした困りごとは地域のささえ合いでも解決できます

資源マップには、いまあるサービスを掲載するだけでなく、簡単な生活支援を行うボランティアグループの募集も掲載しました。

はじめませんか? 高齢者生きがいボランティアグループ

高齢者生きがいボランティアグループ（高ボラ）は、おおむね65歳以上の高齢者の自宅生活の中でのちょっとしたお困りごとに対して、登録したグループの会員が、簡単な生活支援を行い、利用者の地域での生活を支えます。

活動をするには おおむね60歳以上の5名以上のグループで岩国市社会福祉協議会に登録申請	活動の例 ◆買い物代行 ◆ゴミ出し ◆訪問・話し相手 ◆家事・食事支援 ◆修理・修繕 ◆植木剪定 ◆草引き・草刈り ◆家周り清掃 ◆外出同行 ◆送迎 - など	その他 活動中の事故については、社協で加入する保険の範囲内での対応となります
活動範囲 基本的に自治会程度	活動助成金 1回の活動(支援)に対して500円の助成金の支給があります ※上限年間48,000円(500円×96回) ※活動報告書をもとに1年間分を算出し、各グループへ振込まれます	お問合せ・お申込みは 岩国市社会福祉協議会 玖珂支部 Tel.82-3231 〒742-0392 玖珂町4933-2(玖珂中央コミュニティセンター内)
活動報告 毎月5日までに前月の活動報告書を提出		

メモ 66

高齢者支援のための人材バンク

高齢者の社会参加や地域で生活支援の担い手となってもらうことを目的に、ボランティアの登録や派遣を行う仕組みとして「岩国お助けネット高齢者支援人材バンク」があります。この人材バンクに登録されているボランティアの皆さんは、高齢者の生活支援のお手伝いや、介護予防教室のスタッフとして従事されるなど、多様な場で活躍されています。知識や経験を活かし、意欲をもって活動するため、自身のやりがいや生きがいにもつながっています。

地区名	協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
中央地区	周東中央地区社会福祉協議会、自治会、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会周東支部、婦人会	1回	21人
南地区	南地区社会福祉協議会、自治会、福祉員、岩国市社会福祉協議会周東支部	2回	21人
中田地区	中田地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、岩国市社会福祉協議会周東支部	1回	11人
祖生地区	祖生地区社会福祉協議会、民生委員、岩国市社会福祉協議会周東支部	1回	19人
米川地区	米川地区社会福祉協議会、自治会、岩国市社会福祉協議会周東支部	1回	6人
川越地区	川越地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会周東支部、公民館教室、子ども育成会、体育文化振興会	4回	31人

周東町では、各自治会単位程度で出来る生活支援の方法について検討し、高齢になっても自宅や地域で長く安心して暮らすため、サポートとなるサービスや事業について地域の皆さんから情報を集めた資源マップ「周東町お役立ちガイド」を作成しました。

完成した資源マップは、民生委員や福祉員、岩国お助けネット人材バンク登録者、ふれあい・いきいきサロンの代表者など、高齢者の困りごとを聞く機会が多い方へ配布し、近所で困りごとのある高齢者の方へ情報提供していただくようにしました。

また、周東総合支所の福祉窓口や包括支援センターでも活用してもらうよう、配布をしました。



◇情報提供カードを活用した情報収集

お役立ちガイドに今後掲載したらいいと思う情報は、地域のことをよく知る住民の皆さんから提供してもらおうということになり、「情報提供カード」を活用した情報収集を行うことにしました。この情報提供カードは、お役立ちガイドの中に入れて配布をしています。

周東町お役立ちガイド掲載サービス 情報カード						
支援サービス 内容	No.	内 容	該当	No.	内 容	該当
	1	食料品・日用品などの宅配		6	集配のあるクリーニング店	
	2	お弁当の宅配（配食サービス）		7	介護タクシーなど移動支援	
	3	買い物や家事の支援		8	見守りサービス	
	4	草刈り・草引き・剪定		9	その他 ()	
	5	自宅への出張理容・美容など				
※ 該当する内容に○をつけてください。該当のない場合はその他へ追加で記入してください。						
事業所名称		(代表者名)				
住 所						
電 話		F A X				
支援内容詳細		会員登録の要否・対象の支援内容・支援方法・配達料・料金設定・営業日など				

◇高齢者生きがいボランティアグループを立ち上げました

中田地区では「高齢者のちょっとした困りごとを解決するささえ合いができないだろうか？」ということで、高齢者の簡単な生活支援を行うボランティアグループを立ち上げました。高齢者のお宅を訪問して話し相手となったり、買い物や通院の送迎などを行ったりしています。



メモ 66

有償ボランティアによる生活支援

高齢者のちょっとした生活支援を行う制度として、岩国市の玖西地域及び玖北地域には「生活支援ワンコイン事業（事業主体：社会福祉法人岩国市社会福祉協議会）」があります。この制度は、買い物の手伝いやごみ出しなど日常生活における簡単な支援を、地域の方が支援者となって1回500円（ワンコイン）で行うものです。玖珂、周東地区ではこの生活支援ワンコイン事業の活用が多く、地域のためにお手伝いをされる協会会員の登録者数も増加しています。地域で出来る高齢者サポートの一つとして、こうした有償ボランティアによる生活支援もあります。

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
美川地区社会福祉協議会、自治会（自治会連合会）、民生委員、福祉員、人材バンク登録者、高齢者関連施設、商工会、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会美川支部、岩国市美川支所、高齢者生きがいボランティアグループ、ボランティア団体、婦人会、食生活改善推進協議会、地域包括支援センター、人材センター	2回	40人

美川地区では、高齢者のための生活支援帳を作成しました。

◇配布方法

完成した生活支援帳は広報紙の配布にあわせて全戸配布をしました。あわせて民生委員に対して、地域住民からの生活支援にかかわる相談時などに活用してもらうよう依頼をしました。

民生委員・児童委員/福祉員	
日常生活上のいろいろな悩みや問題を抱えている方々に対して、その問題解決に向けたお手伝いをするため、福祉関係機関などと協力しながら、さまざまな支援活動を行います。	
▼あなたの地域の担当者の連絡先をたしかめておきましょう。▼	
【民生委員】 なまえ	☎
【福祉員】 なまえ	☎

生活支援帳には民生委員や福祉員の連絡先を記入する欄を設け、困ったときにすぐ相談できるよう工夫をしています。

発行：2021.3 みかわまちご近所ささえ合い会議

令和2年度版 美川町の生活支援帳

知らない情報がみつかるかも！

移動店舗

①まるやま軒商店（津和野） ☎：090-4803-8344
取り扱い：米、餅、お菓子
対応エリア：要相談

②なかた豆腐店（本郷町） ☎：080-1062-7887
取り扱い：米、餅、お菓子、豆腐、味噌、醤油、豆乳、他
対応エリア：要相談

③コープ「おひさま号」（食料品・生活雑貨）

毎週：水曜日	時間（2021.1.現在）	毎週：土曜日	時間（2021.1.現在）
四馬神（個人宅）	11：50～12：20	伊田川地区	11：50～12：20
わかば台住宅内	12：30～12：45	南桑トンボハウス	12：30～13：00
南桑トンボハウス	12：50～13：30	松野駅前	14：00～14：30
市ヶ原ゴミ集積場所	14：15～14：40	下馬山（個人宅）	14：40～15：10
美川南	14：50～15：20	添谷（個人宅）	15：50～16：20
添谷（個人宅）	16：00～16：30		

お弁当・日用品・食材の配達（予約制）

①佐古商店（本郷町） ☎：75-2101 ※詳しくはお問い合わせください。

②山崎旅館（舟橋） ☎：090-7547-9301
営業時間：10：00～17：00
定休日：不定休
※仕出し弁当の予約、店舗での食事も要予約。
※支払方法：現金、クレジット、PayPay

③中川商店（津和野） ☎：77-0039
営業時間：9：00～18：00
定休日：なし
食料品惣菜お花日用品、ゴミ袋など

④コープやまぐち岩国センター（食料品・生活雑貨の配達）
70（ななまる）サポートは、70歳以上の方に70サポート商品を、毎回5%割引。
さらに宅配配達料での特典もあります。

夕食の配達ここくる（高齢者向けお弁当）
※お昼1食5日コース：※送料込み。
1食あたり490円（他にもコースあり）
コースによって弁当の回収あり。

お買い物合わせ
☎：0120-49-5657
受付時間：月曜～金曜 8：30～21：00
土曜 8：30～18：00

お買い物合わせ
☎：0120-272-428
受付時間：月曜～金曜 9：00～18：00
土曜 9：00～17：00

マルシェ「らくらくらく」便
食品・雑貨の配達
お支払い金額＝商品代金＋配達料金
☎：0120-30-0909
受付時間：月曜～土曜 9：00～17：00

◇きめ細かな情報を掲載

灯油の配達や電球の取り替え作業など、ただ購入だけでなく、そのついでにちょっとした手助けもしてくれるお店の情報があると便利です。

みかわまちご近所ささえ合い会議では、そうした民間サービスの情報や、困ったときの相談窓口、高齢者生きがいボランティアグループの紹介など、美川町で暮らし続けるために本当に必要となる情報は何かをメンバーで話し合い、この生活支援帳を作成しました。



協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
自治会、民生委員、高齢者関連施設、診療所、商工会、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会本郷支部、岩国市本郷支所、自主防災、婦人会、更生保護女性会、地域包括支援センター、駐在所、子ども会、グラウンドゴルフ協会、文化協会、地域活動団体	1回	18人

本郷地区では高齢者のための生活支援情報をまとめた生活支援帳を作成しました。協議体委員が「登録カード」を使って、掲載する情報を収集し、店舗等への掲載確認依頼も行いました。



◇配布方法

完成した生活支援帳は広報紙の配布にあわせて全戸配布をしましたが、気になる高齢者には福祉員を通じてこの生活支援帳を手渡してもらい、困ったときの相談等で活用してもらうようお願いをしました。



協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
自治会、民生委員、福祉員、高齢者関連施設、病院、商工会、岩国市社会福祉協議会美和支部、岩国市美和総合支所、シルバー人材センター、ボランティア団体、地域包括支援センター、ふれあい・いきいきサロン	1回	17人

コロナ禍で協議体メンバーが頻繁に集まるのが難しい中、美和町ではメールなどを活用し、生活お助け帳の作成にむけた内容の確認作業を行いました。

◇配布方法

完成した生活お助け帳は協議体メンバーで配布を行いました。自治会総会や給食サービス利用者などに配布したほか、福祉施設へ設置してデイサービス利用者の手に渡るようにしたり、美和総合支所の市民窓口を設置して介護保険申請の際に配布してもらいました。

◇活用の広がり利用者の傾向

自治会総会で各会長に配布したり、美和総合支所発行の「美和地域だより」で紹介してもらったことから、当初の配布先以外からも「この生活お助け帳を活用したい」という声がありました。

追加で希望された方には印刷代実費分を負担していただき配布をしています、その傾向をみると高齢者の皆さんだけでなく、そのご家族がこの生活お助け帳を活用されていることが分かりました。



離れて暮らす家族が活用できるよう、生活お助け帳には「もしもの時の対策」などの情報も掲載しています。

協議体構成員	延べ開催回数	延べ参加人数
錦地区社会福祉協議会、自治会、民生委員、福祉員、老人クラブ、岩国市社会福祉協議会錦支部、岩国市錦総合支所、シルバー人材センター、高齢者生きがいボランティアグループ	1回	11人

錦町では、高齢者のための生活支援情報をまとめた生活支援帳を作成しました。



◇わたしたちの“にしき”が、いつまでも明るく魅力あるまちであるために…

錦町では、これまでも地域団体や関係機関と連携するだけでなく、地域住民の“互助”による助け合いでコミュニティを形成してきました。しかし、高齢化率が60%弱に達しており、高齢者の皆さんが住み慣れた錦町で暮らしていくためには、困ったときに助けてもらえるサービス資源の情報が必要となります。作成した資源マップには、地域の憩いの場やサロン、困ったときに相談できる「にしき安心サポートチームメンバー」の連絡先など、高齢者の皆さんが錦町で暮らしていくときに必要となる情報が一つにまとまっています。



錦地区ご近所ささえ合い会議では、地域力向上を目指し、今後も拠点づくりの創出を展開していきます。

4. 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活様式が変わって1年以上が経過しました。感染拡大防止のため、「集うこと」への制限が生じ、地域活動も抑制された1年でした。

高齢者の集いの場であったサロンや通いの場なども休止を余儀なくされ、社会的なコミュニケーションの場が減ったことで、認知症やフレイルが進んでしまうことも懸念されています。

しかし、このコロナ禍を経験し、人とのつながり、地域とのつながりの重要性を再確認した協議体では、地域のコミュニケーションを絶やさないよう、新型コロナウイルスの感染拡大防止に留意しながらできることを工夫して行っている姿が見られました。

メールやSNSなどのツールを活用し、直接会わずに意思疎通を図って資源マップの作成作業などを進めた地域もあれば、大人数で集まらずに少人数でささえ合い活動を続けた地域もありました。

また、活動を休止せざるを得なかった協議体でも、地域でのささえ合いの必要性を感じ、いつでも活動再開できるように準備を進めた姿が見られました。

生活支援体制整備事業は、岩国市における地域包括ケアシステムの「自助」「互助」を推進していくものであると同時に、地域づくりを進めていくものでもあります。地域の皆さんが、いま自分たちの地域が必要としているニーズは何かを考え、多様な形を取りながら、ささえ合い活動を行っています。

この動きを絶やさぬよう、岩国市は今後も、生活支援コーディネーターや関係機関、そして地域の皆様と議論をしながら、この生活支援体制整備事業を共に進めてまいります。



令和2年度

岩国市生活支援体制整備事業

～地域が元気になるための活動報告～

令和3年10月作成

編集 岩国市高齢者支援課地域包括ケア推進班

〒740-8585 岩国市今津町一丁目14-51

TEL 0827-29-2566

FAX 0827-22-0928

E-mail kourei@city.iwakuni.lg.jp